

令和4年度 学校評価まとめ(概要)

甲府市立新紺屋小学校

学校教育目標 「かしこく 心豊かに たくましく生きる子どもの育成」

全体を通して概ね高評価であるが、主に課題を中心にまとめている。

1 「学校運営に関して」

- ・個に応じた指導は、「令和の日本型学校教育」の柱の一つである「個別最適な学び」につながるものであり、その実現に向け、今年度の取組である学習指導員や山梨大学院生、教育ボランティア等との連携について引き続き行い、明確な関わり方や効果を考え、可能な限り、授業での様子から改善策を講じ、次の活動に生かしていくようにする。また、校内研究との関わりで、ICTの活用スキルを高め、指導力向上に努める。今年度から2年間、小中体連研究推進校の指定を受けており、次年度はまとめとして公開研究授業を行うことから、チーム学校の実現に向けて、職員間の連携を強化し、学び続ける教員の素地を組織的に確立する。
- ・時間外時数のグラフを掲示したり、全職員の時間外総時数の目標設定をしたりすることで、職員の勤務時間に対する意識づけを継続して行っていく。内容の精選や変更、業務の効率化を図り、校務を整理し副担当制をより意識した組織体制を確立していく。
- ・防災に関しては、実施した避難訓練等をHP等で情報発信していくことはもちろん、体験したことを家の人に話をするよう促したり、家族で防災・防犯に関わることを考える機会を提供したりしていく。

2 「学習指導について」

- ・全体的に肯定的意見が多いが、昨年度と比べて「あてはまる」割合が全般的に低下している。ただし児童アンケートでの「先生は、わかりやすく教えてくださいか」は、「あてはまる」率が昨年度から若干上がっていた。「学級の友達の前で自分の意見や考えを言いやすいか」については、昨年度に比べて「あまりあてはまらない」率が上がり、教職員自己評価の「学び合える形態」において、「あてはまる」率が減少したことと合致している。「協働的な学び」へのアプローチをしっかりと確立させ、授業改善に努めていくことが必要である。
- ・学習するための基本的習慣については「ややあてはまる」率が減少し、若干肯定的評価が減少している。学校の様子を定期的にお知らせする中で保護者と連携しその確立をしっかりと図る。
- ・読書については、昨年度に比べ肯定的評価が若干下がり、保護者の認識も若干微減しているが、児童の捉え方は肯定的評価が昨年度よりも高く、認識の違いがでていた。今までの取組を継続していく中で、今年度から県立図書館との連携することが確認されているので、少しずつ活動を進め、今後も本との出会いを工夫しながら働きかけていく。

3 「生徒指導について」

- ・挨拶については、引き続き教職員が率先して行い、気持ちのある挨拶とはどういうことかを考えさせ、挨拶することの意義を実感できるようにする。今一度、教職員で共通理解を図り、保護者にも協力をお願いし、挨拶が習慣化できるようにしていく。
- ・児童の悩みや相談を聞き、いじめ・不登校・問題行動等の予防や早期発見及び速やかな対応を行っていることについては、肯定的評価は前回同様であり、いじめについては保護者からの評価も同様に肯定的評価であった。児童が先生に相談しやすいと思うことについては若干微減しているので、学校全体として、全教職員が全校児童をみるという意識をもち、安心して学校生活を送ることができるよう努める。不安や悩みが出たときには共感的に話を聞き、一緒に悩み解決していくよう話しやすい相談しやすい雰囲気醸成していく。

4 「連携について」

- ・全体的に肯定的評価である。学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応していることについては、保護者も概ね相談しやすく適切に対応していると評価している。
- ・教育活動や児童の様子をお便りやHPを通して、家庭や地域に知らせ理解を得ていることについても肯定的な評価が高い。児童保護者においては、関連した質問に対して、保護者では前年度の結果よりも上昇してはいるが、児童のアンケートにおいては、お便りを渡したり学校での出来事を家の人に話したりしている項目について昨年度に比べてマイナス面が微増している。家で学校での出来事を話すよう児童に促すと共に、保護者にも声掛けのお願いを折に触れて行う。

